

第3回第3部会における優先検討項目に対する各会派の意見・決定事項について

1 質問方法等の見直し

見直す項目・対象等	No	意見・理由・内容等	会派名
発言回数を見直す対象	1	常任委員会、調査特別委員会とする。	民主党
発言回数、発言時間の制限	1	深く追求するのであれば、発言回数の見直しが必要である。また、常任委員会における発言は、時間制限は設けなくてもよい。	自民党
	2	発言回数、発言時間は制限をしなくてよい。	民主党
	3	発言回数、発言時間は制限をしなくてよい。	共産党
	4	常任委員会の発言回数の見直しについて、議案ごとに審査をするため、時間制限は設けなくてもよい。	公明党
	5	議案ごとに審査をするので、時間制限は設けなくて審査できるのではないかと。	委員長
発言時間が長時間にわたる場合の対応	1	発言時間をどのくらいにするか。	未来創造ちば
	2	委員長の議事整理権の扱いは、委員長によって差が出る懸念があり、時間の扱いをある程度検討する必要がある。	自民党
	3	委員長の議事整理権で対応すればよい。また委員の発言は良識を持って行うべきである。発言時間を決めることが逆に時間内は中身の無い質問や繰り返しの質問を認めてしまう懸念がある。他市の事例からも質問内容を重視する運用を図るべきである。	民主党
	4	委員長の議事整理権で対応する。また傍聴もおり委員の質が問われる。	共産党
議案外質問の取り扱い	1	現在の常任委員会の審査のあり方で発言回数を見直しをすべきで、議案外質問は、別途協議すべきである。	公明党
	2	常任委員会における議案外質問は、別途協議すべきである。	共産党
	3	他市は常任委員会において、議案外質問ができて良い。	未来創造ちば
分科会の質問方法の見直し	1	審査方法の見直しを協議する際に協議する。	民主党
	2	分科会における発言回数、発言時間は常任委員会の見直しの後に協議する。	共産党

2 審査方法の見直しについて

分科会の見直し	分科会数の見直し	1	2分科会から5分科会に見直して審査するのがよい。	自民党
		2	2分科会から5分科会に見直すのは賛成である。	民主党
		3	2分科会から5分科会に見直すことで十分な審査を行う。	公明党
		4	前回の議会改革検討協議会では反対していたが、1日1分科会を開催する5分科会とし、座席の配置を工夫し議員の傍聴ができるようにする。	共産党
		5	常任委員会単位の審査のほうが、十分かつ慎重な審査ができる。	無所属
	審査日数の見直し	1	分科会で1日に審査する所管数を検討した上で審査日数を決定する必要がある。	公明党
		2	分科会の審査日数については、5分科会を1日目は3分科会、2日目は2分科会をそれぞれ開催するなど複数開催を行い、日程の短縮を図るなどの審査日程作成上の論点を整理をされたい。	委員長
	財政に対する審査	1	全庁的な視野に立って判断することも必要であるため、財政については全議員で審査する方法も検討すべきである。	民主党
		2	財政については、トータルな視点を保つため全体で審査する場が必要である。	無所属
		3	改選前の議会改革検討協議会では、5分科会にすると全体を見ることができないため反対する意見があり、まとまらなかったが、財政を全体で審査する総括的な質問を行えば解決できるのではないかと。	委員長
	予算・決算に対する賛否	1	分割して委員会単位の審査を行い、採決を行うほうが執行部への監視機能を高める。また、議会の権能、役割の向上につながるため、賛否を表明する機会をつくるべきである。	無所属
	改選前の協議	1	改選前の分科会運営の見直しを踏まえて協議する。	公明党
	予算・決算説明資料	1	全体的な視点での投資効果、経営状況が判断しにくいいため予算・決算説明資料の改善を求める。	無所属
	決算審査結果の次年度予算への反映	1	決算を審議する時期には次年度の予算編成に取りかかっており、決算審査で得られた結果を次年度予算に反映することができない。	無所属
	事業評価	1	事業評価などを実施するなど予算・決算審査を拡充する。	公明党
2		政策評価シートを用いて委員会の審査方法を強化する。	未来創造ちば	
質問方法の見直し	1	委員会審査を活性化させるため質問方法を見直す。	公明党	
委員間討議	1	委員会審査を活性化させるため委員間討議を行う。	公明党	